県立高等学校再編振興計画の次期計画策定に向けて

資料１

１　県立高等学校再編振興計画（平成26年度～令和５年度）

◎策定の経緯

社会のグローバル化や情報化の進展、産業構造の変化や雇用形態の多様化が全国的に進む中で、本県においては全国に先行して人口減少が進み、南海トラフ地震の発生も見込まれた。こうした厳しい社会環境のもとで、引き続き高等学校教育の充実と、安心して学べる教育環境の整備に取り組むため、再編振興計画を策定した。

○再編振興の取組

１　キャリア教育の充実

２　生徒や保護者の期待に応える教育活動の推進
（魅力ある学校づくり）
- 普通科、産業系専門学科、総合学科、定時制・通信制の適切配置、教育活動の充実
- 学びのセーフティーネットの構築
- 教員の指導力の向上
- 部活動の充実

３　生徒数の減少に対応するための学校規模の維持と適切な配置

適正規模	県全体 （高知市及びその周辺地域）	１学年４～８学級 （１学年６学級以上）
最低規模	全日制及び多部制昼間部の本校	１学年２学級以上
		【特例校】１学年１学級（20人以上）以上 ＜※１＞室戸、嶺北、佐川、窪川、檮原、四万十、清水 ＜※２＞中芸、城山、高岡、大方
	分校	１学年１学級20人以上
	定時制及び多部制夜間部	学校全体の生徒数20人以上

【特例校】＜※１＞過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校
＜※２＞不登校経験者や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校

４　南海トラフ地震への対応

５　次代を担う人材を育てる教育環境の整備

○前期実施計画（H26～H30）

１　学校の統合
- 須崎工業高等学校と須崎高等学校との統合（H31.4統合完了）
- 高知南中学・高等学校と高知西高等学校との統合（R5.4統合完了）

２　学科改編
- 城山高等学校と高岡高等学校を学年制から単位制へ
- 大方高等学校の定時制多部制昼間部を全日制（単位制）へ

○後期実施計画（H31～R５）

１　ＩＣＴの活用による中山間地域の高等学校の教育の充実
- 遠隔授業開始（Ｒ２年度～）Ｒ５:16校34講座

２　南海トラフ地震への対応
- 安芸中学・高等学校と安芸桜ケ丘高等学校との統合
- 清水高等学校を清水中学校隣接地の高台へ移転

３　統合等
- 安芸中学・高等学校と安芸桜ケ丘高等学校との統合（R5.4統合完了）
- 分校、定時制：後期実施計画の期間は基本的に継続

４　学科改編等
- 山田高等学校　グローバル探究科・ビジネス探究科を設置

○前期・後期実施計画の共通項目
- 本校の最低規模の特例校及び中山間地域の学校※の設定
- 進学拠点校（前期：６校、後期：２校追加　計８校）
- 海外研修―グローバル教育の取組としての海外留学や海外研修
- 中山間地域の学校の取組―室戸(女子野球、ジオパーク学)、嶺北・西土佐分校(カヌー)　等

※中山間地域の学校（前期：７校、後期：３校追加　計10校）
前期：室戸、嶺北、佐川、窪川、檮原、四万十、清水
後期：中芸、高知追手前吾北分校、中村西土佐分校

２　県立高等学校の現状及び課題

◎県立高等学校：33校（分校２校を含む）

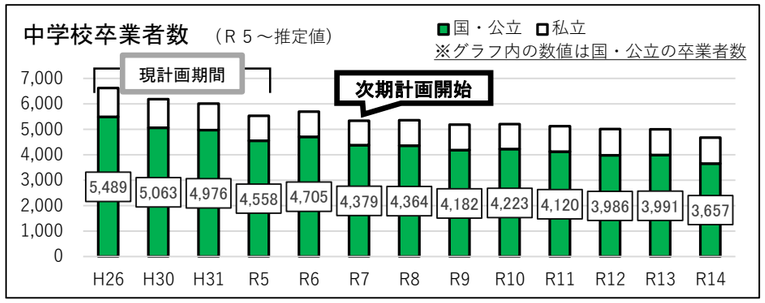
１　社会の変化等に対応した高等学校教育の進展
- １人１台タブレット端末の整備（令和３年度完了）と、コロナ禍により急速に進んだＩＣＴの活用
- 遠隔授業の実施

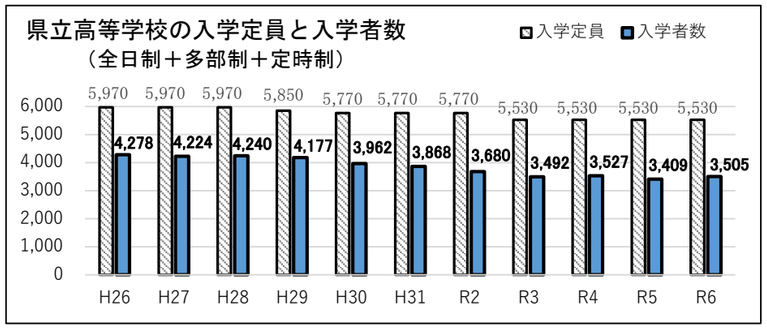
Ｒ２年度	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度
10校14講座	11校のべ20講座	14校のべ23講座	16校のべ34講座

２　学校と地域の連携・協働の前進
- 県外生徒募集を行う「地域みらい留学」参加校等の増加
  H31年度入学者：８校15人　→　Ｒ６年度入学者：13校49人

３　学校の小規模化

（１）生徒数の減少





（２）最低規模の要件を満たしていない学校　（R6.４　１年生の生徒数）
- 全日制及び多部制昼間部の本校並びに分校
  中芸、高知追手前吾北分校、高知海洋、中村西土佐分校
- 定時制及び多部制夜間部
  室戸、中芸、高知東工業、高岡、須崎総合、佐川、大方、宿毛、清水

（３）高等学校進学者の県中心部への集中
- 県立高校の生徒のうち、高知市内又は南国市内の県立高校に通う生徒数の割合　63.7%（R5.５ 全日制１年生）
- 中山間地域の高校の地元中学校からの平均進学率　31.3%（Ｒ５年度）
※高知県中山間地域再興ビジョンにおける目標値　50.0%（Ｒ15年度）

４　多様な学習ニーズの顕在化　（国・公・私立の計)(文部科学省調査による）
- 不登校生徒数　（人）

高知県	H30年度	Ｒ１年度	Ｒ２年度	Ｒ３年度	Ｒ４年度
中学校	784	783	861	1,043	994
高等学校	320	353	303	303	292

- 日本語指導が必要な児童生徒の在籍人数（小・中・高・特支の計）　（人）

	H24年度	H26年度	H28年度	H30年度	Ｒ３年度
高知県	28	40	20	34	23
全　国	33,184	37,095	43,947	51,126	58,307

３　教育委員会協議会における検討事項

☆検討するうえでの前提

◎第３期教育等の振興に関する施策の大綱及び第４期高知県教育振興基本計画（令和６年３月）

◆目指す人間像（基本理念）
- ○学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人
- ○郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人
- ○多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人

◆目指す人間像を実現するための基本目標
- ○確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開
- ○健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着
- ○豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進

◎生徒の学びの保障

◎高等学校を取り巻く環境の変化への対応
- ○デジタル化、グリーン化、グローバル化の進展
- ○「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（令和３年１月中央教育審議会答申）
  - 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
  - カリキュラム・マネジメントの取組の一層の推進
  - スクール・ミッションの再定義、スクール・ポリシーの策定
- ○高知県中山間地域再興ビジョン（令和６年３月）
- ○高知県産業振興計画

検討のポイント

①学校の規模と配置
- 最低規模の目安を下回る学校の今後の存続等（地域の活性化）
- 生徒の学びの質・機会の保障

②社会の変化に対応した学校改革
- これからの社会を見通した学科・コースの設置や改編、統合等
- 多様な教育機会の確保（不登校経験のある生徒や日本語が母語ではない生徒への対応、インクルーシブ教育の推進等）
- 各学校のスクール・ミッションの再定義

③学校の魅力化・特色化
- 地域資源を生かした教育活動の展開
- 学校、市町村、産業界など地域が一体となった教育活動の充実
- 探究的な学びやＳＴＥＡＭ教育等の教科等横断的な学びの推進

次期計画策定に関するスケジュール（案）

※ 次期計画は令和７年度から実施

Ｒ６ ４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月
県立高等学校の在り方検討委員会								
	第５回 中間まとめ(案)		第６回	第７回 報告書(案)				
	教育委員会協議会					次期計画 パブリック コメント		次期計画 策定
	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回 次期計画 (案)			

【第１回】「後期実施計画」の総括、在り方検討委員会の中間まとめ報告、次期計画策定に向けて
【第２回】学校の規模と配置、学科・コースの設置や改編・統合等、小規模校の教育課程の在り方
【第３回】多様な教育機会の確保、学校の魅力化・特色化
【第４回】学校の魅力化・特色化、各学校のスクール・ミッションの再定義
【第５回】次期計画（案）